

みやサポ通信

宮之阪中央商店街の取り組み

vol. 4

祝！宮ノサポ引っ越し1周年

～一年間の歩みとこれから～

当商店街事務局と宮ノサポが移転して早、1年を迎えました。以前の場所より間口が広くなり、地域の皆さまにもお気軽にお立ち寄りいただけるような施設となりました。この「チカラの mise 処宮ノサポ」を中心とした活動と今後も商店街と地域を結ぶ拠点となるよう様々な取り組みをしていきますのでご紹介いたします。

宮ノサポカフェ

4月より毎週月・水・金曜の午前10時から午後4時まで開催。コーヒーまたは紅茶に手作りのちよつとしたお菓子がついて1000円で提供しています。このお菓子も商店街サポーターさんが毎週金曜日に作られてい

心学塾作業所さんの手作り菓子販売

宮ノサポ内で心学塾作業所さんの手作りのクッキーなどの焼き菓子を販売していますので、お気軽にお買い求めください。

子どもいきいき食生活

毎月第2・4木曜日の午後5時30分から午後7時30分まで開催。定番メニューは月の1回目がかレーライス、2回目がかレーライス、別に定食メニューを20食限定となっています。参加費は、中学生以下は0円・大人(16歳から64歳まで)は400円・65歳以上は300円で提供しています。3月14日の開催では、子どもは39名、大人と65歳以上は

20名の参加となり、ご飯もカレーも綺麗になくなるほどでした。十分に用意をしても品切れでお断りすることが度々あり、ご迷惑をおかけしています。できるだけ時間内は多くの方に食事の提供ができるよう工夫していきます。

【ご寄付を頂いた方へ】この場を借りて、いつも食材等のご寄付を頂き、感謝申し上げます！



キッチンの様子

宮ノサポ

毎月第3土曜日、午前10時から午後4時まで開催。手作りのパンや雑貨を販売、たまにバザーも同時開催しています。8月はお休みします。

宮ノサポの活動

趣味だけではなく、やりたいうことを気軽にご利用できます！

【ロウの花教室】毎月第1・3火曜の午後1時30分から午後3時頃まで、参加費1000円。事前申し込み必要

【ギターサークル】毎月第1木曜の午後6時から午後8時まで、参加費は500円。

【PC・スマホ何でも相談】毎月第1・3木曜の午後1時30分から午後3時頃まで、参加費500円。

【居酒屋淳ちゃん】不定期な土曜に午後5時から午後9時まで、価格はお料理と生ビール以外は300円、生ビールは400円。

その他、4月8日は手作りショップさんが手作りの小物や雑貨を販売、カーブス様による高齢者の筋肉測定(仮)、昭和ギター合唱も予定しています。

ステツプフオワード使い③

一般社団法人ステツプフオワード 女子会担当

私たちは枚方市就労準備支援事業と厚生労働省の若者サポートステーション事業を受託し運営しています。来所される方の就労と自立を目標としており、その過程において、来所される方が社会や地域と繋がることのできるように色々な活動を通じてお手伝いをしています。前回は、私たちが行っているワークショップのご紹介をさせて頂きました。今回は、その一つである「女子会」について詳しくご紹介します。「女子会」はその名の通り、女性限定のワークショップです。普段のワークショップとは異なる「女性だけ」という限定された空間を準備することで参加しやすくなる方もいるのではないかと

との思いで始めました。参加される方々がモノづくりがお好きであったこともあり、当初から、「何かを創る」ことを一つの主軸として継続的に開催しています。これまで、砂を吹き付けて絵を描く「サンドブラスト」、消しゴムを彫ってハンコをつくる「消しゴムハンコ」、スイーツをつくる「ランチ会」、液体をUVライトで固めてつくる「レジンアクセサリー」、同じくUVライトを使って行う「ジェルネイル」などをしてきました。特に「レジンアクセサリー」は当初想像していたよりも作品作りが難しく、「綺麗な形にならない・・・」と、くじけそうになりながらも、みんなで試行錯誤を重ね

ね、作品の完成度をあげることを目指してきています。そういったプロセスを共に体験し、色々な作品と一緒に作り上げる中で、メンバー同士の関わりも増えてきています。女子会開催当初は緊張感が強く、互いへの挨拶もどこかぎこちなかった様子から、宮ノサポという「いつも変わらず過ごすことができる」という安心感を持てる場所の力にも支えられ、作品を作っている最中に、綺麗に作る事ができる方法についてお互いに教え合うなど、関わり合う場面も増えていきます。そんな女子会メンバーに「宮サポカフェの看板をリニューアルしてほしい」との貴重な依頼が舞い込んできたのは去年末のことでした。宮サポカフェは、水曜と金曜に宮ノサポで開催されているカフェで、開催中であることが分かりやすいように開催時に外へ看板

を出されています。いつも助けて頂いている宮ノサポの役に立てるということもあり、張り切って、引き受けてさせて頂きました。作業開始後、まずはそれぞれで、どうリニューアルさせるかのデザインを練りました。どのデザインも、お一人お一人のカラーが出ていて見えてワクワクするものでした。その後、お互いのデザインを見せ合い、それぞれの良い部分や活かしたい部分などについて話し合いを続けながら、何とか一つのデザインを作り上げました。その後も、文字の書き込みにも悪戦苦闘したりもしつつ、丁寧に作業を進めていき、ついに完成！自画自賛ながら「良い感じ！」とみんなでニコニコしてしまふような看板が出来上がりました。結果としては上手くいったのですが、実は今回の看板作りは、女子会にとって一つのチャレンジで

した。というのも、これまで、「それぞれが自分の作品をつくる」というスタイルの内容ばかりでしたが、今回は「みんなで一つのものをつくる」という点で初めての内容だったので。誰かと関わることに緊張感を持ちやすいメンバーにとって、自分の思いを表現したり、意見を交換したりすることはとても勇気が必要です。看板をつくる過程で、それを体験できたことはとても大きな一歩だったと感じています。重ねて、看板が地域の皆さまに使用されることで「誰かの役に立った」という自信に繋がる体験にもなったと思います。これからも、一歩ずつ、みなさんと一緒に前に進んでいきたいと思っています。



ぜひ、お越しください〜(´▽`)

近隣住民の支えあいとCSWの相談支援

枚方市社会福祉協議会 寺田清彦

コミュニケーションソーシャルワーカー(通称・CSW)は支援を必要とする人に対し地域とのつながりや人間関係など、本人を取り巻く環境を重視した相談援助を行う福祉相談員です。CSWに寄せられる相談は多岐にわたります。今回は相談の事例を一部紹介します。

相談内容

(相談経路: 住民→民生委員→CSW)

近隣に住む50代の女性が隣家にゴミを投げ入れる、夜中に近隣のインターホンを鳴らして回るなど、近隣住民が迷惑している。Aさんは医療や福祉を受けている様子はなく、公的な制度で何か支援をできないか。

CSWが関わった内容

- ・近隣住民を訪問し経過と状況を確認
- ・Aさんを訪問し、医療にかかることの不安や現用の思いなどを確認
- ・保健所、病院、親族と連携したAさんの支援の方向性を確認(ネットワークを構築)
- ・近隣住民対象に「誰もが住みよいまち」についての意見交換会(福祉座談会)を開催

関わった結果

- ・Aさんが医療にかかり、体調が回復し精神面も安定
- ・長年ひきこもりがちであったが、買い物などの外出が不安なくできるようになった
- ・近隣住民と笑顔で挨拶を交わす、近くのイズミヤや商店で出会ったときに一緒に買い物にまわるなど、近所付き合いが相互でできるようになった
- ・不安なく訪問看護の利用や通院を開始される

今回の事例は、Aさんと同じ地域に住むことの不安や心配を民生委員さんに相談されたことから始まり、CSWへたどりついたケースでした。民生委員さんから「とにかく来て欲しい」と相談をうけ、数名の地域住民が集まる家に伺いました。「Aさんを何とかしてほしい」「Aさんにここに

住んで欲しくない」という地域住民の声を聴き、近隣住民のストレスを強く感じました。

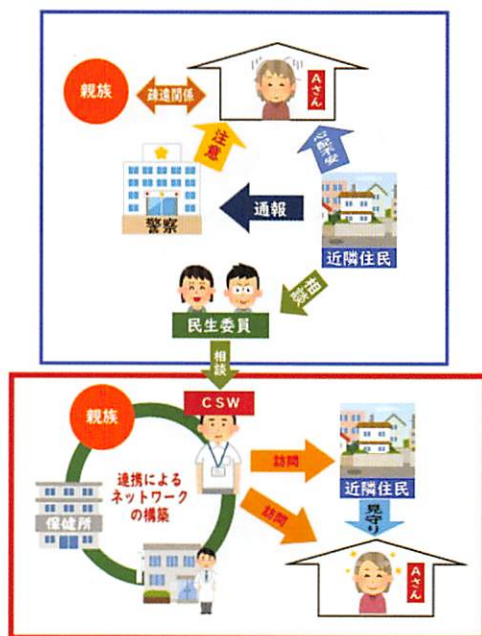
CSWとしてまず考えたことは、Aさんと①どのようにして援助関係を結ぶか②医療を受けることが必要な状況であれば受診を勧める③保健所・病院相談員と

連携し、支援のネットワークを構築することでした。本人や家族以外の人から相談を受けた時、支援を望まない人との関係性の構築や支援のアプローチを図る方法がないケースが多く、今回のケースもどのようにCSWがAさんに関わっていくことができるかが課題でした。しかし、近隣住民がAさんの家の電気がつかない日が続いていることに気づき、民生委員さんに相談されたことがきっかけで事態が大きく変化しました。

近隣住民の気づきと相談がきっかけでCSWとAさんが関わることで、親族、保健所や病院の関係機関のネットワークが広がり、Aさんの支援に結ぶことができました。

Aさんが医療機関に繋がった後、近隣住民を対象に「誰もが住みよいまち」について考える機会を持ち、意見交換会(地域福祉座談会)を開催。参加した近隣住民からは認知症高齢者や精神障害者との関わりの体験談やエピソードが語られ、理解の輪が広がりました。

Aさんは退院後、迷惑をかけてしまったことを申し訳なく思い、自ら近隣を訪問してまわったそうです。近隣住民が喜び、今では近くのイズミヤや商店で出会ったときに一緒に買い物にまわったり、気兼ねなく挨拶がかわせるようになったとの声をいただいています。連絡先4面に掲載。



地域包括支援センターの活動紹介 医療と介護の連携

枚方市地域包括支援センター松徳会 浅田 京子

地域包括支援センターは65歳以上の高齢者とその家族のための総合相談窓口です。全国の市町村に設置されており、枚方市には現在、13の圏域ごとにセンターがおかれています。

地域包括支援センターでは相談業務以外にも様々な活動を行っています。何をしているのかよく分からない」というお声も時々いただきます。

今回は沢山ある活動の中でも、特に重要な「医療と介護の連携」の取り組みについてご紹介してみたいと思います。

高齢になると病院にかかることが増えてきます。まして、生活に困り事や手助けが必要になってきた方

は、複数の医療機関に通院していたり、介護保険によるサービスを利用しながら暮らしている方も多いことでしょう。

主に「病氣」を診る「医療」と、「生活」を見る「介護」がつながることで、例えば入院・退院などの際、スムーズな連携が行われるようになります。枚方市では平成28年度から、地域包括支援センターの圏域ごとに医師、歯科医、薬剤師、看護師、ケアマネジャーなど高齢者に関わる職種が一同に集まり、「多職種連携研究会」を開催しています。平成31年2月14日には、大阪精神医療センターにて「多職種で行う認知症予防」をテーマに開催し、62名と



「認知症に早めに気づくために、自分に何が出来るだろう」と職種や立場を超えてグループワークで意見交換



いう大勢の方にご参加いただきました。大阪精神医療センター 副院長 岩田先生が開発された枚方市・病院・吉本興業によるコラボ



レーション、大阪らしい「笑い」を取り入れた認知症予防プログラムのご紹介や、グループワークでは「共に気づく認知症」をテーマに地域の身近な相談相手である民生児童委員さん等も交え活発な意見交換が行われました。今後も地域の皆様が安心して暮らすことが出来るよう、「顔の見える関係づくり」に取り組んでいきます。

宮サポ通信Vol. 4

発行：宮之阪中央商店街振興組合

問い合わせ先

住所：枚方市宮之阪1丁目19-2

TEL&FAX：072 (848) 4298

HP：https://miyanosaka.top

相談料は無料。秘密は厳守致します。電話(807)3448 ◆受付 月～金 ※祝日除く午後9～5時30分

枚方市社会福祉協議会
ラポールひらかた

